

123456

□F□O□R□P□R□O□F□E□S□S□I□O□N□A□L

ドリームバイザー特選メールマガジン (2)
木村喜由のマーケット通信 2006 年 8 月 17 日

□D□R□E□A□M□V□I□S□O□R□.□C□O□M□□

急がば回れ

日常生活から始まっている投資のスキルアップ

投資をするのは、金融商品の生む利子や値上がり益によって利益を得るためである。お金は万能薬ではないが、お金の有無により生涯や幸福が大きく左右されるのは明らかであり、時には生命にかかわることもある。お金は大事だ。したがって一定以上のお金を持つよう努力するのは当然である。壮年期までは労働によって収入を得ることができるが、普通は期限付きである。働けなくなった時に備えて年金や資産運用の準備をしておくことは、人並みに豊かな生活を送りたいと願う人なら当然のことである。

毎年の生活に必要な金額と想定可能な収入(フロー)、将来のために蓄積したい目標額とその達成期限(ストック)は、毎年、または2-3年に一度きちんとノートや白紙に書き出しておおまかなマネープランを作っておく必要がある。貯蓄の目標額を達成するには、労働などの効率を上げて収入を増やす、賢い消費と節約によって支出を削減する、投資によるリターンを拡大させる、という3つのアプローチがある。しかし収入が低いうちは投資に回せる金額が少なく、その収益も大したことではないので、ひたすら収入アップと上手な節約のスキルを高めることにより、毎年のフローからの貯蓄額を高める努力をすべきだ。

一定の収入を上げる能力があれば、投資で失敗しても当面の生活に支障はないので、預貯金を削って投資に回す資金を多くすべきである。通常、投資によるリターンの方が預貯金の利率よりずっと高いから、貯蓄目標の達成も早くなる。それ以上に重要なのは節約の努力だ。限界税率20%の人が10%年収を増やすと、手取り収入は8%増えるだけである。ところが安売りや株主優待の利用、または季節的ピーク時の購入を避けることで、ほぼ同じ実質価値の消費を10%低い価格で行うことができる。そうするとまるまる手元に残るし消費税の支払いも減る。年収の高い人ほど税率が高いから、節約の効果が大きく出る。

投資で蓄財する意志を固めたら、パチンコ、競馬、宝くじはおやめなさい。たまの気晴らしや時間つぶしでも年間で 1 万円以内に抑えるべきだ。これらは投資額に対する期待値は大幅なマイナスであり、しかも相当な時間と労力、脳力を費やす必要がある。それだけのエネルギーがあるなら会社四季報や日経マネーその他の投資関係の書籍に時間を費やしたほうがよい。銘柄レポートなどで推奨されている銘柄を後追いするよりも、普段から成功している投資家の手法を見よう見まねでコピーするほうが成果が出る。

投資リターンを高めることは、簡単とは言わないが、きちんと学習し、自制すれば必ずできる。しかしそれ以前に、詐欺にかからないことが重要だ。割の良い投資物件が持ち込まれたら、ほぼ 100%インチキと断じて間違いはない。迷ったら当協会に電話しなさい。悪質な詐欺に引っ掛かったら元も子もなくなり、投資どころではなくなってしまう。

投資リターンはわれわれには決められない

フローの収入と支出はコントロールできる。ところが投資のリターンは相場環境と運、タイミングの良し悪しで大きく変わってくる。長期的に考えても、壮大な強気相場が 10 年以上続いた局面に運良く遭遇するか、歴史に残る 10 数年にも及ぶ弱気相場に巻き込まれているかでは、投資成果に雲泥の開きが出る。70 年代のようにインフレ基調の時代では預貯金に置いておくとどんどん目減りした。しかし 90 年以降のデフレ局面でも預貯金がベストだったわけではない。よほどタイミングが悪くない限り、外債や外国株は国内投資より成功する場合が多かった。いずれにせよ個人的な要素で運用成果に差が生じるのは間違いないが、市場全体の長期トレンドの方がずっと重要である。

証券アナリストは、顧客が他の人々より早いタイミングで売買できるよう導くレポートで給与を得ている。最近よく見られることだが、有力証券会社から推奨レポートが出た銘柄は、すぐさま急騰・急落している。アナリストレポートが株価に影響を与えているのは確実だろう。また IR 活動に不熱心だった会社が急に力を入れだして、株価水準が大きく変わることもある。しかし長期的に見ると、株価の位置はそのときどきの市場環境と企業収益によって決まるのであって、アナリストや企業による広報活動で決まるわけではない。

気象予報士はかなりの確度で明日の天気を予想できるかもしれないが、彼らが天気を決めることはできない。アナリストの場合も、その影響度を信じた投資家が短期売買のチャンスと見て売買したり、彼により新たな情報がもたらされたため株価が反応するという点は気象予報士とは違うが、アナリストが株価の着地点を決めているのではない。アナリストにより将来あるべき株価の実現が早まったり、オーバーシュートすることはあるが、いずれその反動が生じるので、将来株価に影響を及ぼすことはほとんどない。

結局、意志を持って今の局面に立ち向かうことができる当事者は、企業と経済当局だけである(これには日本だけでなく海外もある)。これらの当事者がいかに真剣に状況に取り組み、よい成果を出すために奮闘しているかを、投資家自身が日経新聞、四季報、インターネット等で確認しながら、その経験、良識に従って適切妥当な判断を下していけば、そこそこ良好な投資成果が得られることは間違いない。

最大のリスクは、我々自身にある。我々は(見かけと違って)非常にものぐさで、長期間でなら必ずうまくいく作業を短期集中的に完了させ、後の時間をのんびり遊び暮らしてしまいたい誘惑に駆られてしまうのである。それでついついリスクへのガードが甘くなり、過剰投資や詐欺師の誘いに乗ってしまうのである。急いで儲けようとするな。急がば回れ。結局、それが終わってみると高い収益率につながるのである。

(了)

----- 最終的な投資判断はご自身で願います。本文、データなど本メールマガジンの内容すべてに関する正確性、信頼性、安全性、迅速性などに 直接または

間接的に起因する損害や費用などの一切について、その程度を 問わず、ドリームバイザー・ドット・コム（株）および マネックス証券（株）、NPO 日本個人投資家協会、その製作者、

データ提供者、 その他関係者は責任を負わず、損害賠償に応じません。 また、メールマガジンの本文、データなどは著作権法などの法律、規制 により知的所有権が保護されており、個人の方の本

来目的以外での使用や他人への譲渡、販売コピーは認められていません（法律による例外規定は除く）。以上の点をご了承の上、メールマガジンをご利用くださ

。